

第9回 八戸西スマートインターチェンジ地区協議会資料（概要版）

1. 八戸西スマートインターチェンジ地区協議会について

【目的】

- ・協議会は、八戸西スマートインターチェンジ（以下「スマート IC」という。）の設置、管理及び運営等について、必要な検討及び調整等を行うことを目的とする。

【協議会の事業】

- (1) スマート IC の設置に係る次に掲げる検討及び調整等
 - ① スマート IC の社会便益（スマート IC の費用と比較し、十分な社会便益を確認すること）に関すること。
 - ② スマート IC 及び周辺道路の安全性に関すること。
 - ③ スマート IC の設置に伴う高速道路の利用交通量の変化に関すること。
 - ④ スマート IC の構造及び整備方法に関すること。
 - ⑤ スマート IC の管理・運営方法に関すること。
 - ⑥ スマート IC の利用促進方策に関すること。
 - ⑦ 広域的検討結果の反映に関すること。
 - ⑧ その他スマート IC を設置・管理・運営する上で必要な事項に関すること。
- (2) スマート IC の供用開始後の社会便益・安全性・利用交通量・管理・運営形態等についての定期的なフォローアップ及び必要に応じた見直し
- (3) その他目的達成に必要な事業

2. 供用開始（H31. 3. 23）から R7. 3. 31 までの利用状況について

【(1) 八戸西スマート IC の概要と位置】

- ・八戸西スマート IC は、東北縦貫自動車道八戸線、八戸 JCT と八戸北 IC の間に設置され、平成 31 年 3 月 23 日に供用開始となった。
- ・地域生活の充実、地域経済の活性化を目的とし、高速道路の既存施設から一般道に出入りできるように設置された ETC 専用の簡易型インターチェンジである。

【(2) 平均出入交通量（1日あたり）と累計出入交通量】

- ・昨年度の事務局会議において、過去と現年の交通量台数を比較する際に同じ期間でなければデータの取扱いが難しいとの意見をいただいたため、今年度から過去も含め 4 月から 3 月までの年度で資料を作成。
- ・令和 5 年度の 1 日あたりの平均出入交通量は 970 台、令和 6 年度の平均出入交通量は 1,033 台となっており、計画交通量の 610 台を大幅に上回っている。
- ・令和元年度（2019 年度）の平均出入交通量は 603 台であり、令和 6 年度（2024 年度）の 1,033 台と比較し、約 1.7 倍増加となっている。
- ・供用開始から令和 7 年 3 月 31 日までの平均出入交通量も 781 台となり、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言等の影響による一時的な落ち込みはあったものの、

順調に回復し、計画交通量を上回る状況である。

- ・累計交通量は約 171 万台となり、普通車・軽自動車が全体の約 9 割を占めている。

【(3) 曜日別出入交通量（全車種）】

- ・令和元年度と比べ、全ての曜日において大幅に増加している。
- ・特に金曜から日曜までの週末が多くなっていることから、観光やレジャーに利用されることが多いスマート IC であると考えられる。

【(3) 曜日別出入交通量（普通車・軽自動車）】

- ・全ての曜日において増加しており、令和 5 年度と令和 6 年度を比較しても、全体的に同等または増加している。
- ・当インターを利用し、令和 4 年 11 月 27 日に全線開通した上北自動車道へと走行する利用者の増加や新型コロナウイルス感染症の 5 類移行が一因と考えられる。

【(3) 曜日別出入交通量（中型車・大型車・特大車）】

- ・令和元年度と令和 6 年度を比較すると、全ての曜日において大幅に増加している。
- ・令和 5 年度と令和 6 年度を比較しても、全ての曜日において微増の傾向が見られることから、当スマート IC の利用が定着してきていることが想定される。
- ・交通量は、休日よりも平日の方が多いため、事業用・社用に利用されていると考えられる。

【(4) 前後 IC の出入交通量の変化】

- ・三陸沿岸道路や上北自動車道にアクセスできない八戸 IC は、八戸西スマート IC 開通前と令和 6 年度を比較すると減少している。
- ・一方で、八戸北 IC、八戸西スマート IC 及び八戸是川 IC が設置されたことで、市内に設置されている IC 全体交通量は、令和 5 年度と令和 6 年度を比較すると減少しているものの、開通前と比較すると約 1.1 倍増加している。
- ・昨年度の事務局会議において、実施計画書にある開通後の推計交通量について、八戸是川 IC と南郷 IC は実績と乖離があることから推計交通量の根拠を示してほしいとの意見があり、事務局で確認した結果、八戸是川 IC の実施計画出入交通量は、国土交通省が平成 22 年度に実施した一般交通量調査結果から算出しているが、資料の出入交通量は八戸ジャンクション料金所の交通量となっており、計測箇所の相違が判明した。
- ・南郷 IC については、実施計画出入交通量を国土交通省が平成 22 年度に実施した一般交通量調査結果から算出しているが、実施計画出入交通量と実績に差があり、実際は想定よりも減少しているのが現状。

3. 東北縦貫自動車道八戸線（仮称）八戸西スマート IC 実施計画書

⇒東北縦貫自動車道八戸線（仮称）八戸西スマート IC 実施計画書（平成 26 年 6 月）では、開通後に期待される整備効果として 5 事項を掲げている。

◆整備効果《(仮称) 八戸西スマートインターチェンジ実施計画書 (平成 26 年 6 月) から抜粋》

- (1) 高速道路の利便性向上
- (2) 地域産業、経済活動の活性化
- (3) 広域的な医療体制の充実
- (4) 防災活動の支援
- (5) 観光産業への支援

4. 整備効果について

【(1) 高速道路の利便性向上】

- ・実施計画では、高速道路のアクセス圏域 10 分圏が拡大し、五戸町から最寄りインターチェンジまでの所要時間が短縮され、利便性が向上する想定となっている。
- ・整備後、五戸町中心部から八戸ジャンクションまでの所要時間は、開通前の 33 分から開通後は 26 分と 7 分短縮されている。
- ・参考として、八戸西スマート IC 利用者の令和元年と令和 6 年度を比較した OD (起終点) 調査を掲載。(青森河川国道事務所様より提供)
- ・ゴールデンウィーク期間を比較した場合、終点として、八戸市中心部、八戸ニュータウン、ひばり野公園 (五戸町) が増加している。
- ・10 月～11 月の土日祝日を比較した場合、終点として、本八戸駅周辺、櫛引八幡宮周辺が増加している。
- ・10 月～11 月の OD (起終点) 調査の結果、全体的に八戸市内のインター間での利用が最も多く、続いて青森市、おいらせ町、三沢市、階上町など周辺の市・町からの利用が多い。
- ・以上のことから、八戸市周辺の利用者は、市内の渋滞回避や新幹線利用者、八戸駅への送迎用に八戸駅に近い当スマート IC を利用していると考えられる。

【(2) 地域産業、経済活動の活性化】

- ・実施計画では、八戸市西部地区や周辺の町村において、ながいもやにんにくの農産物生産が活発であり、高速道路へのアクセス性が向上することにより物流の効率化が図られると想定している。
- ・青森県トラック協会三八支部会員からは、八戸西スマート IC の利用は限定的だが、夕方、根城大橋が混雑している場合に利用することが多いとの声がある。
- ・新郷村の運送業者からは、八戸道を利用する場合に八戸西スマート IC が一番近く、よく利用しているとの声がある。
- ・青森県トラック協会三八支部からは、現在、八戸西スマート IC 周辺に大きな工場や倉庫がないため、利用頻度はそれ程多くないかもしれないが、今後、周辺に工場や事業所が出来ることでより利用する頻度が増加すると思われるとのコメントをいただいた。

- ・現在、「八戸北インター第2工業団地」を整備中で、令和6年6月から分譲受付を開始しているが、八戸北ICと八戸西スマートICの両インターへのアクセスが可能なおことから、企業立地の促進が期待されている。

【(3) 広域的な医療体制の充実】

- ・実施計画では、五戸町方面や八戸市西部地区から八戸市立市民病院への救急患者搬送時間が短縮され、救急救命医療に大きく貢献すると想定している。
- ・実際、おいらせ町から八戸赤十字病院への搬送時間が5分短縮され、救命救急医療に貢献している。
- ・救急隊員からは、揺れが少なく安定した走行が可能となり、患者への負担軽減や運転時の安全性向上など、効果を実感しているとの声がある。
- ・八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部からは、八戸西スマートIC整備前は、当スマートICと八戸北IC間の下りで事故等の災害が起きた場合に、緊急車両は八戸ICから向かうことが出来なため南郷ICから向かう必要があったが、当スマートICが整備され、当スマートICから高速道路に進入することが可能となったことから、状況に応じた迅速な対応が可能となり、選択肢が増えたとのこと。
- ・ドクターカーは、五戸町方面及び八戸市西部地区からの救急隊とドッキングする場合、状況によりルートを選択することになるが、混雑する中心市街地を回避してスムーズにドッキング出来ていると聞いている。

【(4) 防災活動の支援】

- ・実施計画では、環状高速道路ネットワークを効率的に活用した災害時の救助・救援ルートが確保され、防災活動への貢献が期待されている。
- ・整備後は、八戸市の高速道路ネットワークが強化され、災害時の救助・救援ルートの多重化が図られ、八戸市西部地区を拠点とした多方面からの早急かつ安全な緊急輸送活動が可能となっている。
- ・八戸西スマートICの立地が、令和3年5月に公表された最大クラスの津波時でも浸水予想エリア外にあるため、津波被害などにより道路が寸断された場合でも、防災拠点である八戸市長根屋内スケート場や救援物資集積場所・避難所等を結ぶ救援物資輸送ルートの選択肢が増えている。

【(5) 観光産業への支援】

- ・実施計画では、三陸復興国立公園へのアクセス性が向上し、観光産業の活性化とともに、三陸沿岸の復興にも貢献すると想定している。
- ・整備後は、三陸復興国立公園や下北半島方面へのアクセス性が向上し、八戸駅から三陸復興国立公園方面へは11.5分の短縮、八戸駅から下北半島方面へは4.6分の短縮となっている。
- ・十和田八幡平国立公園、いわゆる奥入瀬溪流、十和田湖、八甲田山方面へのアクセス性

も向上し、東西間の通行の利便性があがっている。広域観光にも寄与し、南郷方面から十和田八幡平国立公園方面へは7.9分の短縮となっている。

- ・高速道路の利便性が向上したことにより、種差海岸階上岳地域や陸中北部、三陸沿岸地域に点在する主要観光地（蕪島・種差海岸・小舟渡海岸・小袖海岸など）を結ぶ観光周遊ルートが確立され、三陸沿岸地域の観光振興・復興支援に貢献していると考えている。
- ・三陸復興国立公園の令和5年の入込客数は約49万人、十和田八幡平国立公園は約207万人となっており、コロナ禍前と同等の水準まで回復している。

5. 利用促進方策について

- ・広報・ホームページ等への掲載について、広報はちのへ令和7年12月号に掲載した。
- ・外部向けの八戸市長講演について、今年も東京、名古屋で八戸市の充実した高規格道路ネットワーク等をPRした。
- ・会員団体が有する機関誌等への掲載について、八戸商工会議所様が発行している「八戸商工ニュース」の令和8年1月号に掲載を依頼。
- ・今年度も引き続き、市政情報モニターのデジタルサイネージとフェイスブックを活用し、八戸西スマートICを起終点とする周辺の観光スポットを紹介していく。
- ・デジタルサイネージは、八戸市庁本館1階、別館1階、イオン八戸田向店の3か所で表示されている。